

第16回  
しまね景観賞

守り  
創り  
育てよう  
ふるさと島根の景観



島根県

## ●表紙のご紹介



旅みやげ第三集より  
「出雲美保ヶ関」  
大正13(1924)年 多色木版・紙  
(島根県立美術館収蔵)

川瀬巴水は、版元・渡部庄三郎のすすめでこの時期、精力的に全国を取材旅行し、数々の風景版画を版行している。「旅みやげ第三集」は全28図を数え、本作以外に松江の堀川沿いの風景版画などを含む。本作は美保関にある石灯籠を描いたものであるが、空気の澄んだ朝の時間を選び、水面を大きくとって清々しい美保関の朝の空気を伝える。現在とは少し位置関係や見える景色などが異なるが、祠も石灯籠も美保ヶ関に現存する。

川瀬巴水(かわせ はすい) 明治16(1883)年～昭和32(1957)年  
東京芝に生まれる。洋画と日本画を学び、1910年、鍋木清方に入門。「巴水」の号を与えられる。1918年、伊東深水の木版画《近江八景》を見て版画への関心を寄せ、同年、塩原に題材をとった3点の版画作品を発表して以降、1957年に没するまで、風景版画に情熱を燃やし続けた。浮世絵版画の伝統手法を生かしつつも、新しい版画の可能性を見いだし、詩情豊かな風景版画の名作を数多く生み出した。

## はじめに



島根県知事  
溝口善兵衛

私たちのふるさと島根では、緑織りなす山並みや変化に富んだ海岸線、日本海に浮かぶ島々などの美しい自然、人々の営みから創り出された農山漁村の風景、今日まで大切に守り引き継がれてきた先人の知恵が生かされた歴史的なたたずまいなど、それぞれに個性豊かな特色ある地域の景観が生まれ、かたちづくられています。

こうした優れた景観を将来にわたって保全するとともに、新たな魅力ある景観を創り、育くむことを目的として、平成3年12月に制定された「ふるさと島根の景観づくり条例」に基づき、県では様々な施策を進めて参りました。

その一つである「しまね景観賞」は、魅力ある島根の景観づくりに貢献しているまちなみや建造物及び活動等を表彰することにより、快適で文化の薫り高い島根の景観を形成していくことを目的としています。平成5年の創設以来、今回を含め175件が受賞され、多くの県民の皆様の高い関心を寄せていただいております。

第16回となる今回は、大賞の「菅谷たたらとカツラの木」をはじめ、10件の建造物や活動などを表彰いたしました。さらに、本賞がこれまで15回を数えたことを記念して、過去の受賞物件の中から受賞後も引き続き良好な景観づくりに取り組んでおられるものを募集し、2件を「景観づくり貢献賞」として表彰いたしました。受賞されました皆様に、心からお祝いを申し上げますとともに、審査委員の皆様や、本賞の趣旨に賛同し、御応募いただいた方々に、厚くお礼を申し上げます。

今後とも、島根の魅力ある景観の保全・創造に向けて取り組んで参りますので、一層の御理解と御協力を賜りますよう、お願いいたします。

平成21年2月

## 選考総評



しまね景観賞審査委員会  
委員長

藤岡大拙

第16回を迎えた「しまね景観賞」を募集するにあたり、昨年度で本賞が15回を数えたことを記念して、従来の部門に加え、過去の受賞物件のうち受賞後も引き続いて良好な景観づくりを行っているものを「景観づくり貢献賞」として募集し、表彰を行うこととした。

こうして行った今回の応募総数は、170件であった。これは過去2番目に多い数であり、この賞が県民の方々に広く受け入れられてきていることがうかがえる。

選考に当たっては、まず書類審査で31物件を選定し、その後、現地審査と最終審査会を行い慎重に審議し、10件の建造物や活動等、そして2件の景観づくり貢献賞を選定した。

大賞は『菅谷たたらとカツラの木』である。力強くどっしりとした趣で、凜とした清浄な気配を漂わせている高殿と、春の一時期、枝先からたたらのはたけが燃え立つように赤くなるカツラの芽吹きが生み出す幻想的な景観を保存・活用する地元の取り組みが高く評価された。

優秀賞は4件である。「土木施設部門」から選ばれた『神戸川乙立地区河川災害関連工事』は、改修した箇所がわからないほど周囲の自然景観にとけ込んでいる点が評価された。「公共建築物部門」から選ばれた『松江市役所美保関支所』は、シンプルかつ力強いデザインで周りの風景にとけ込んでいる点が評価された。「民間建築物部門」から選ばれた『日刀保たたら烏上木炭銚工場』は、色調の工夫ひとつで、周囲の山々や付近の住宅と良好な調和を見せている点が評価された。「工作物その他・活動部門」から選ばれた『船通山に咲くカタクリの花と「横田山の会」』は、生育が難しいカタクリの保存活動を28年の長きにわたって取り組んでいる点が評価された。

奨励賞は5件である。「まち・みどり部門」からは、干し柿の生産に携わる方々の日々の営みが生み出した産業景観である『干し柿の里「畑地区」』と、銀山街道沿いの古民家を解体・復元し、銀が運ばれた当時の様子を彷彿とさせる歴史文化的景観を形成する『銀山街道の古民家「倉屋」』が選ばれた。「土木施設部門」からは、隠岐の雄大で壮観な風景と調和し、一つの空間としてまとまっている『知夫里島の橋(汐見橋)』が選ばれた。「民間建築物部門」からは、二百数十年前の創建当時の姿に修復された『堀江家住宅』が選ばれた。「工作物・その他活動部門」からは、開花直前に倒れた桜の巨樹を地元住民等の熱い思いで再生させた『海老谷桜』が選ばれた。

景観づくり貢献賞は、受賞後も多年にわたり、地域の方々が熱い思いを持って引き続き良好な景観づくりに取り組んでいる『矢尾・日下の景観づくり活動』と『大井谷の棚田』が選ばれた。

今後も、さらに多くの県民、事業者の皆さんがよりよい景観づくりに一層積極的に取り組まれ、生活と文化の豊かさを実感できる県土が築かれていくことを期待してやまない。

平成21年2月

大賞

# 菅谷たたらとカツラの木

雲南市  
吉田町菅谷



ひわだぶき  
檜皮葺の屋根、土壁  
そこにあるすべてのものが  
暖かさや心地よさを感じさせてくれる

**紅** 葉が美しい山々、その山あいへ深く分け入った奥出雲地方の菅谷地区にたたら製鉄の高殿とカツラの巨木がある。

高殿は、力強くどっしりとした趣で、凜とした清浄な気配を漂わせている。たたら製鉄のための機能と風土にあわせた形や素材がこの美を生んだのであろう。檜皮葺の屋根、土壁そこにあるすべてのものが暖かさや心地よさを感じさせてくれる。

懐かしい母なるものを想像させ普遍的な美となって訴えて来るこの景観は、地元のとゆまぬ努力により保たれていると云う。

カツラの木は、たたらかなやごしんの神「金屋子神」が飛来した木と伝えられ、たたらかなやごしんのシンボルとされている。樹齢二百年、樹高二十メートルの巨木は、高殿に分かちがたく彩りを添えている。

春の一時期、三日間しか見られないカツラの芽吹きは、枝先からたたらかなやごしんの炎が燃え立つような赤であると言う。幻想的で美しい景観の現出に人々はしばし立ちつくすであろう。

(山谷裕子)



事業主体／雲南市、財団法人鉄の歴史村地域振興事業団  
清流クラブ(24名)

概 要／菅谷たたら山内  
昭和42年11月に国の重要民俗資料に指定  
エリア内には、たたら製鉄に関連する建物(高殿、元小屋、米倉など)が現存している。  
高殿:高殿様式としては、全国唯一現存しているたたら製鉄の操業を行っていた建物  
カツラの木 樹齢約200年、樹高約20m  
清流クラブ  
菅谷たたら山内周辺河川を清掃・整備し、景観を保持することを目的として活動を行っている。

優秀賞

# 神戸川<sup>おったち</sup>乙立地区河川災害関連工事

出雲市  
乙立町

## 自然景観に溶け込んだ 河川改修事業のすばらしさに感動

**神**<sup>かんだがわ</sup> 戸川流域は、平成18年7月16日から19日にかけて、集中豪雨に見舞われ、出雲市乙立町<sup>おったちちょう</sup>では神戸川の越水により、家屋・公共施設の浸水、農地の冠水、神戸川に架かる二つのつり橋が崩壊するなど甚大な被害を受けた。

乙立町は名勝及び天然記念物や県立自然公園に指定されている立久恵峡を有するなど、すばらしい自然や景観が残された地域である。神戸川乙立地区では、再度の災害を防止するため、河川災害関連事業（河川延長2,640m）により河川整備が推進され、平成20年6月に災害復旧事業が完了した。この事業では、河川護岸には自生植物による植栽を施し、河床には湾曲部のみならず直線部にも瀬や淵を配置したことにより、生物多様性に配慮した景観が清流の気持ちよさを醸し出している。また、堤防のパラペット部の修景のため、コンクリートの洗い出しもなされており、改修した箇所がわからないほど周囲の自然景観に美しく溶け込んでいる。さらに、周辺地域の人々だけでなく、観光で訪れた人々にもアコ釣りや川遊びを楽しめる魅力的なアメニティ空間としての工夫も施されており、河川改修事業における景観形成のあり方として模範となる事業といえる。（荒尾慎司）



事業主体／島根県

設計者／榎大隆設計

施工者／今岡工業㈱

概要／工事延長 2,640m

河道掘削工、築堤工、ブロックマット工、胸壁工、張芝工

完成 平成20年6月

優秀賞

# 松江市役所美保関支所

松江市  
美保関町下宇部尾



## 敷地の形状を上手に利用した建物は 清楚でシンプル、それでいて力強い

**美** 保関町は、島根半島の東、小さな漁港の町である。海の神様である「蛸びすさま」が鎮座する美保神社は年中通して神事も多く、奥深い歴史で形成された文化と伝統の町でもある。

松江市街から国道431号を車で20分ほど走ると、中海の穏やかな入り江に面した気持ちの良い美しい建物が目に入る。この支所は、役所機能と子育て支援機能に加え、市民の交流の場ともなっている。時折聞こえてくる幼子の声や、若いお父さんお母さんの出入りする姿がこの建物に似合っている。

敷地の形状を上手に利用した、半地下状態の車庫兼収納庫を組み込んだ建物は清楚でシンプル、それでいて力強い。外壁の杉板にコンクリート打ち放しとガラス面の巧みなバランス。列柱の間合いのよさ、それらが心地よい空間をつくり、身の丈にあったスケール感が周りの風景に溶け込み、完成度の高い建物に仕上がっている。

(平本映子)



事業主体／松江市

設計者／㈲アイエムユウ建築設計事務所

施工者／カナツ技建・作野組特別共同事業体

概要／構造 鉄筋コンクリート造

階数 地上2階一部3階、地下1階

建築面積 1,530㎡

延床面積 2,315㎡

(1階1,080㎡、2階712㎡、3階111㎡、  
地下1階332㎡、機械室棟80㎡)

完成 平成16年11月

優秀賞

# にっとうほ とりかみもくたんせんこうじょう 日刀保たたら鳥上木炭銑工場

 仁多郡  
奥出雲町大呂


## 色調の工夫ひとつで 周囲との調和に成功したお手本

日刀保（日本美術刀剣保存協会）「たたら」は、靖国たたらの後を受けて、現在、世界でただ一つ、玉鋼（たまがね）を生産している施設。木炭銑工場といえば、鉄や木炭の粉塵で薄汚い建物を想像するのだが、まったく違っていた。本施設は奥出雲町大呂に所在し、鳥上の緑豊かな谷あいの集落の一角にあり、事務所や「たたら」設備、木炭貯蔵施設などの建物群から成り立っている。平成十九年に、建物群の入口にある事務所は、江戸風の黒瓦、漆喰、下見板張などに改修されているが、いかにも伝統的技術を保存、活用する施設にふさわしいエントランスである。その他の建築物群は、穏やかな色調のこげ茶色で塗りなおされているが、これが、周囲の山々や付近の住宅と良好な調和を見せている。とくに同色で塗られた煙突は、かなりの高さであるが、その色調のおかげで、違和感も威圧感もなく周囲に溶け込んでいるのに感心した。色調の工夫ひとつで、周囲との調和に成功したお手本のようなものである。（藤岡大拙）



事業主体／財団法人日本美術刀剣保存協会  
日立金属株式会社安来工場  
設計者／榑熊谷組広島支店（角炉施設）  
松崎建築（たたら展示室）  
施工者／榑熊谷組広島支店（角炉施設）  
松崎建築（たたら展示室）  
概要／角炉施設 構造 鉄骨造、階数 地上1階一部2階  
延床面積 299.85㎡  
完成 平成18年10月  
たたら展示室 構造 木造、階数 地上1階  
延床面積 163.66㎡  
完成 平成19年12月

優秀賞

# せんつうざん 船通山に咲くカタクリの花と「横田山の会」

仁多郡  
奥出雲町竹崎



## あたり一面咲き乱れる カタクリの花の美しさが身に沁みて 迫ってくる

**五**月の初めごろ、険しい山道を登り着いた山頂には、風に揺れるカタクリの花があたり一面咲き乱れ、遙か遠くまで見渡せる風景が広がっている。その景観はまさに絶景である。その山は、すさのおのみこと素戔嗚尊が降臨され、やまたのおろち八岐大蛇を退治した地とされる伝説の山「船通山」。

カタクリは、踏み固められ硬くなった土からは生えず、花が咲くまで7年もかかるという難しい植物。このカタクリの保存活動を行っているのが地域の有志で組織された「横田山の会」で、その活動は28年間にも及ぶという。

パトロールや登山道の倒木処理、草刈り、標識の補修、山頂のロープ設置など長年の取り組みによりカタクリの花が開花に至っていることを知り、よりいっそう花の美しさが身に沁みて迫ってくる。

カタクリの花はわずかな間しか見られないからこそ、尚更この光景は人々に感動を伝える。その価値と意義は大きい。（山谷裕子）



事業主体／横田山の会（33名）

概 要／昭和55年から比婆道後帝釈国定公園「船通山」に自生する絶滅危惧種カタクリの保護活動を実施している。

活動内容／注意喚起の看板設置、保護ロープ設置、パトロール活動、草刈、自然解説等啓発活動

奨励賞

# 「ほし柿の里」**「畑地区」**

八束郡  
東出雲町上意東



## 軒下に連なる「柿すだれ」 鮮やかな銚色の光沢が晩秋の山里に 彩りを添えている

**松** 江から東に車で15分、「ほし柿の里」で知られる東出雲町に入る。  
細い曲がりくねった上り道、澄みきった空気、照葉の鮮やかさが眩しい。

遠目には、日光をいっぱい浴びた柿を収穫する人々の姿や軒下に連なる「柿すだれ」が列を作ってつるされ、鮮やかな銚色の光沢が晩秋の山里に彩りを添えている。この「畑地区」という名称がいつ頃から用いられていたかは定かではないが、江戸時代の中期から、ほし柿の生産が盛んだったと伝えられているから、たぶんその頃からであろうか。標高150メートル、周りが山々で、霧が上がらないという乾燥に適した恵まれた環境のなせる妙。その上にほし柿の生産に携わる方々のご苦勞が現在の「畑地区」の姿を生み出したのでしょうか。日々の営みが実った産業景観といえよう。

(平本映子)



事業主体／畑干し柿生産組合

概 要／面積 約10ha

江戸時代中期から特産の西条柿を使った干し柿を生産  
(年間出荷個数約40万個)

11月頃から季節の風物詩である、柿小屋に並ぶ銚色の柿すだれが見頃となる

奨励賞

# 「くらや 銀山街道の古民家「倉屋」

飯石郡  
飯南町下赤名



## 当時の人々の往来を見つめてきた 当時の様子を彷彿とさせる 歴史文化的景観

**石** 見銀山で採掘された銀は、当初仁摩や温泉津などの積出港から海上輸送で運ばれていたが、江戸時代になって陸路輸送に切り替えられたという。その陸路は、大森から宿場町赤名（現飯南町）を経由して尾道までの約130kmが整備され「銀山街道」と呼ばれるようになった。現在では当時の街道の雰囲気を残している場所は少ないなかで、この赤名では「古市の古道」など史跡がよく残っているところから、銀山街道のルートを後世に伝えるため平成19年におよそ10kmにわたって整備された。

「倉屋」と称される茅葺きのこの古民家は、まさにその街道脇に建っていて、牛馬や人によって銀が行き交っていた時代からのものと伝えられている。数年前からかなりの老朽化が進み倒壊寸前であったためこのたび修復された。修復にあたっては使用されていた材料工法等綿密な事前調査を行い、一度解体した上で復元されている。この建物はわずか6坪強の小さな古建築ではあるが、当時の人々の往来を見つめてきた歴史的佇まい、また周辺の里山風景と相まって銀が運ばれた当時の様子を彷彿とさせる歴史文化的景観を形成するに十分な存在となっている。（小草伸春）



事業主体／飯南町  
設計者／ゆまにてく  
施工者／侑正木建設  
概要／構造 木造茅葺き  
階数 地上1階  
建築面積 25.46㎡  
延床面積 25.46㎡  
完成 平成19年10月

奨励賞

# ちぶりしま しおみぼし 知夫里島の橋(汐見橋)

 隠岐郡  
知夫村多沢


## 隠岐の雄大で壮観な風景と 橋の力強いデザインが調和し 一つの空間としてまとまっている

「橋」は、時代の流れと共に、様々な素材やそれを構築する技術で、実用機能を超えた地域の特色ある固有の風景を創っている。

「汐見橋」は、日本海に浮かぶ隠岐諸島の最南端、大山隠岐国立公園のなかに位置する知夫里島の漁港に架かる橋である。

水産物資の円滑な輸送や住民の日常生活道路を確保するため、湾内の海上にバイパス（橋長L=160m）を整備する事業で、平成16年1月に完成した。この橋は、バイプレッシング方式単純桁・RCラーメン高架橋という工法による鉄筋コンクリート造りの橋で、厚さを抑えた中央の橋桁や数多くのシンプルな柱で支えられた床版のゆるやかな曲線が、スマートさと力強さを感じさせる。さらにコンクリートの白色と高欄の銀色が、周囲の雄大な海洋風景や山並みをひきかて違和感がない。

また、基礎の鋼管を支える捨石マウンドの天端高さを海藻の生育に適した水深にするなど環境への配慮もなされている。

隠岐の雄大で壮観な風景と橋の力強いデザインが調和し、一つの空間としてまとまっている。知夫里島の新たなランドマークといえよう。

(神長耕二)



事業主体／島根県

設計者／社団法人水産土木建設技術センター

施工者／オリエンタル建設嵯松江営業所（上部工）

東洋建設・徳畑建設特別共同企業体（下部工）

概要／橋長 160.0m、全幅 7.0m

橋梁形式 バイプレッシング単純1桁橋

完成 平成16年1月

奨励賞

## | 堀江家住宅

雲南市  
吉田町民谷まさに日本の原風景といっても  
過言ではなからう

**奥** 出雲の山深い雲南市吉田町民谷の地。かつての里山の風景は、こうした茅葺きの民家が点在し、あるいは集落を形成していたことであろう。そうした意味では貴重な文化遺産である。堀江家は、雪深い中国山地を代表する農家建築である。2本の大黒柱、それに架かる牛梁、合掌などスケール大きな木組みに圧倒される。まさに日本の原風景といっても過言ではなからう。牛など家畜と同居する間取りが残る貴重な民俗資料でもある。

昭和44年(1969年)に国重要文化財に指定された。保存修理工事には三年二ヶ月をかけて平成20年1月に完成をみた。工事中に、二度見学させて頂いたことがあり、御当主の堀江さんともお話しする機会があった。修理は、創建された安永三年(1774年)に近い時代まで遡った姿にされたようだ。囲炉裏の位置などが議論になったと聞く。囲炉裏文化は山陰では少なく、中国山地などの山間部に多かったようである。また、二百数十年の歳月は、生活様式の進化と共に建物にもその歴史が刻まれてきたことであろうが、それらをそぎ落とした修理となっているのは寂しい感じもする。

堀江さんは、「長い年月を持ちこたえ、直ったことは嬉しい。今後は、地域の子供たちと囲炉裏を囲んで、民谷の文化や歴史を語るなど歴史景観として長く後世に伝えたい」との思いもあるようだ。(渡部孝幸)



事業主体／堀江泰正  
 設計者／財団法人文化財建造物保存技術協会  
 施工者／多田建設 中国支店 松江営業所  
 概要／構造 木造茅葺き  
           階数 地上1階  
           建築面積 221.3㎡  
           延床面積 156.4㎡  
 完成 平成19年12月

奨励賞

えびたにさくら  
| 海老谷桜

浜田市  
三隅町向野田



姿は大きく変わってしまったが  
残された蕾が開花し  
人々の感動を誘った

**平**成20年4月1日、「海老谷桜、倒れる」の報に、多くの人々が驚き、胸を痛めた。

浜田市三隅町の名木として知られ、平成17年には市の文化財にも指定された海老谷桜は、樹齢約350年。樹高12メートル、幹周り3.45メートル、枝張りは東西14メートル、南北19メートルにも及ぶ、ヤマザクラの巨樹であった。「木材腐朽菌」によって根が傷み、斜面に生えていたこともあって、自らの重みに耐えかねて倒木したもので、開花直前の出来事であった。

「この桜は私たちにとって親も同然。何とか助けてください」。このような地元の方々の悲痛な声に浜田市も迅速に対応し、腐朽した根の除去や折れた枝の切断等の処置を施し、隣接する平地に移植した。姿は大きく変わってしまったが、移植後、残された蕾が開花し、人々の感動を誘った。その後、地元住民による水やり、施肥等の維持管理活動や、近隣の桜やつつじの名所での募金活動も展開され、人々の温かな眼差しの中、桜は懸命に生き続けている。

地区のシンボルとして、多くの人々の優しさの証として、今後も末永くその姿をとどめてほしい。来るべき春が待たれる思いである。

(八田典子)



事業主体／浜田市

海老谷集落若さ創りの会

施工者／第一建設工業㈱

大森庸司（樹医）

概要／浜田市指定文化財の海老谷桜は、開花を目前にした平成20年4月1日早朝、木材腐朽菌により根が朽ちて倒木した。

地域、樹医、行政が一体となって移植保護処置を行った。

# やび くさ か | 矢尾・日下景観づくり活動

出雲市  
矢尾町～日下町



## 大賞受賞から10年目記念の植樹をした町の財産を壊してはなるまい、どうか守り継いでいってほしいという願いを込めて

そもそも「壁だおれ」といわれるほど外観にお金を使った土地柄らしい。おかげでこんなに美しい道ができた。連なるヒイラギモクセイの生垣に家々の白壁と赤瓦が映える。たまには車の便利さを捨てて一本裏手を歩いてみよ、といわれているような気さえしてしまう。

が、地元の人々がその価値に気づいたのは意外と遅い。平成2年、出雲市の景観賞に輝いてからだ。まさらな目で見てみれば、古き頃の余情に富む。この道を先祖が遺した財産と認識し、「もくせい往還」と名づけた。そして、日下町・矢尾町全216戸がこぞって景観づくり協定を結ぶに至るのである。

そんな積極的な取り組みが評価され、平成7年度の本賞では第1回大賞の栄誉に浴す。「きれいだとほめられると、もっときれいにしたくなる」との声。生垣の刈り込みは春に行う。消毒は梅雨前、全戸いっせいに。足並みを揃えてしなくては意味を成さないからだ。

大賞受賞から10年目には、高浜小学校5・6年生の児童とともに記念の植樹をした。町の財産を壊してはなるまい、どうか守り継いでいってほしいという願いを込めて。

景観づくりは一人ではできない。一朝一夕にも無理だ。北山の麓を縫う生垣と石垣の道が、そんな至極当然のことを教えてくれる。

(伊藤ユキ子)



事業主体／矢尾・日下景観づくり事業実施委員会(229世帯)

概要／「北山の自然と史跡を活かす矢尾・日下景観づくり協定」に基づいて、住みよいまちづくりを目指し、地域景観の維持と向上を図るための活動を行っている。

- ・石垣をもつ民家の町並み・もくせい往還(2,500m)の景観づくり
- 往還の清掃、草刈り、もくせいの刈り込み、往還沿い樹木の剪定、薬剤散布等

# 大井谷の棚田

鹿足郡  
吉賀町柿木村白谷



## 英知にあふれる取り組みによって 棚田はこれからも四季の詩を 謳い続けよう

**石** 積み of the terraces on steep slopes creates a wavy pattern. There are about 600 terraces of various sizes. Around them are red-tiled houses. In Oiwake, this is the landscape of the terraces. Looking at it, you are overwhelmed by its powerful beauty. The difficulty of farming is not as much as you think. However, you will realize that you should not lose it. It is a landscape that you should not lose.

In this award, it was selected as the Grand Prize for the 13th year. "Living together with the terraces" and decided to do it. Three years ago, all 20 households raised the residents' organization "Oiwake no Kai" and revived the terraces, taking the first step of local revitalization.

Since then, conservation activities continue. In the early stages, the terraces owner system was introduced. Every year, about 30 groups apply for it. Repeaters are many, and many people from urban areas return home. They do field work, weeding, and harvest. They are proud of their work. The distance between farmers and their families is not as close as you think. In addition, the terraces trust system is also smooth. The 1 million yen raised is used for planting flowers and repairing the terraces. Women have started their own terraces workshop. Local ingredients are used for local food. It is very popular.

By the way, thanks to the efforts in Oiwake, the terraces will continue to sing the poetry of the four seasons. In the 10 years, what has changed the most is that you can find the local people's consciousness. (Ishizuka Yukiko)



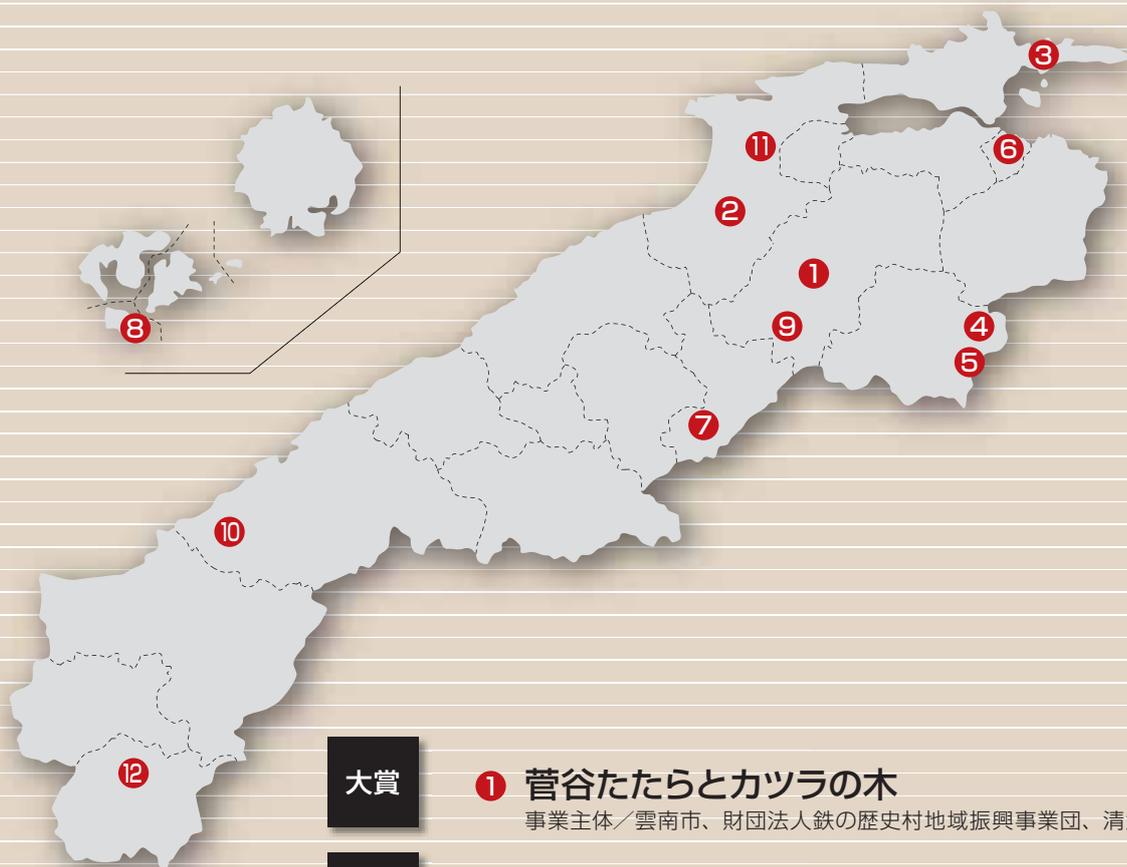
事業主体／助はんどうの会

概 要／面積 8.2㎡ 棚田の枚数 639枚

助はんどうの会

平成10年4月9日から活動開始、会員20戸

棚田を活かした地域づくりに取り組んでおり、今年で10年目を迎える棚田オーナー制度は毎年30組前後のオーナーが、大井谷の四季折々の美しい景観の中で、農作業体験や地区住民とのふれあいを楽しんでいる。また、平成10年から開催している都市交流イベント「大井谷棚田まつり」も今年で11回目を迎え、町内外からの大勢の来場者で年々賑わいを増している。近年、新たに棚田案内板の整備や展望公園の植栽など更に美しい棚田を後世に引き継ごうと地区住民一丸となって絶え間ない棚田保全活動に取り組んでいる。



## 大賞

### ① 菅谷たたらとカツラの木

事業主体／雲南市、財団法人鉄の歴史村地域振興事業団、清流クラブ

## 優秀賞

### ② 土木施設部門 神戸川乙立地区河川災害関連工事

事業主体／島根県

### ③ 公共建築物部門 松江市役所美保関支所

事業主体／松江市

### ④ 民間建築物部門 日刀保たたら鳥上木炭銚工場

事業主体／財団法人日本美術刀剣保存協会、日立金属株式会社安来工場

### ⑤ 工作物その他・活動部門 船通山に咲くカタクリの花と「横田山の会」

事業主体／横田山の会（33名）

## 奨励賞

### ⑥ まち・みどり部門 ほし柿の里「畑地区」

事業主体／畑干し柿生産組合

### ⑦ まち・みどり部門 银山街道の古民家「倉屋」

事業主体／飯南町

### ⑧ 土木施設部門 知夫里島の橋「汐見橋」

事業主体／島根県

### ⑨ 民間建築物部門 堀江家住宅

事業主体／堀江 泰正

### ⑩ 工作物その他・活動部門 海老谷桜

事業主体／浜田市、海老谷集落若さ創りの会

## 景観づくり 貢献賞

### ⑪ 矢尾・日下景観づくり活動

事業主体／矢尾・日下景観づくり事業実施委員会（229世帯）

### ⑫ 大井谷の棚田

事業主体／助はんどうの会

※設計者・施工者については、完成時の名称

## 第16回 しまね景観賞



しまね景観賞表彰銘板

### 審査 委員

土木工学 **荒尾 慎司**  
独立行政法人国立高等専門学校機構  
松江工業高等専門学校  
環境・建設工学科教授

作家 **伊藤ユキ子**  
紀行作家

建築業界 **小草 伸春**  
(株)小草建築設計事務所代表取締役

行政 **神長 耕二**  
島根県土木部長

芸術学 **八田 典子**  
公立大学法人島根県立大学  
総合政策学部教授

デザイン **平本 映子**  
松江生活デザイン研究所主宰

○歴史学 **藤岡 大拙**  
島根県立大学短期大学部名誉教授

美術 **山谷 裕子**  
画家

建築学 **渡部 孝幸**  
大田市町並みアドバイザー

敬称略/50音順 ○印は審査委員長

### 審査 経過

募集期間  
～平成20年9月1日(月)

募集結果  
応募総数…170通  
応募物件…155件

第1次審査(平成20年9月18日～10月3日)  
応募書類、写真をもとに第2次審査の  
対象となる31物件を選出

第2次審査(平成20年11月11日・12日)  
選出された31物件について現地審査及  
び最終審査会を行い、12物件を選定

表彰式(平成21年2月12日)  
受賞物件の事業主体、設計者及び施工  
者に対して賞状を、事業主体には副賞と  
して銘板も併せて贈呈

第16回 しまね景観賞第2次審査対象物件一覧

部 門	名 称	所 在 地
ま ち・み どり	玉湯川の桜並木	松江市玉湯町湯町～玉造
	笠浦の赤瓦	松江市美保関町笠浦
	※ほし柿の里「畑地区」	八束郡東出雲町上意東
	江津市 青山団地	江津市二宮町
	※銀山街道の古民家「倉屋」	飯石郡飯南町下赤名
	※菅谷たたらとカツラの木	雲南市吉田町菅谷
土 木 施 設	横田多里線横田駅前広場(出雲横田駅前通り)	仁多郡奥出雲町横田
	仁万漁港海岸保全地区	大田市仁摩町仁万
	※知夫里島の橋(汐見橋)	隠岐郡知夫村多沢
	三谷川総合流域防災工事	雲南市三刀屋町三刀屋
	※神戸川乙立地区河川災害関連工事	出雲市乙立町
公 共 建 築 物	旧江津郵便局	江津市江津町本町
	※松江市役所美保関支所	松江市美保関町下宇部尾
	観光交流プラザ アラエッサ♪ YASUGI	安来市安来町
	松江市立島根中学校(島根公民館・学校給食センター)	松江市島根町加賀
	隠岐空港ターミナルビル	隠岐郡隠岐の島町岬町
	浜田市立原井小学校	浜田市港町
民 間 建 築 物	江津本町 藤田邸	江津市江津町
	ト蔵庭園と奥出雲のそば屋「椿庵」	仁多郡奥出雲町大呂
	※日刀保たたら島上木炭銚工場	仁多郡奥出雲町大呂
	※堀江家住宅	雲南市吉田町民谷
	来間屋生姜糖本舗	出雲市平田町
工 作 物 そ の 他 ・ 活 動	銀山街道 道しるべ	飯石郡飯南町赤名地内ほか
	※船通山に咲くカタクリの花と「横田山の会」	仁多郡奥出雲町竹崎
	※海老谷桜	浜田市三隅町向野田
	中田瑞穂生誕の地の看板	鹿足郡津和野町後田
	意東海岸	八束郡東出雲町下意東
景 観 づ くり 貢 献 賞	※矢尾・日下景観づくり活動	出雲市矢尾町～日下町
	麓耕自治会「麓耕つつじの里」	鹿足郡津和野町麓耕
	※大井谷の棚田	鹿足郡吉賀町柿木村白谷
	木綿街道及び小村邸の取り組み	出雲市平田町

受付順 ※は受賞物件



シマネスク・島根

平成21年2月

企画・編集／島根県土木部都市計画課